

PROGRAM

2001リュートの会 定期演奏会

2001年11月3日(土) 午後2時開演 聖グレゴリオの家 聖堂

第1部

1 宇野 弘樹 19世紀ギター

マエストーソ op. 51 / グラツィオーソ op. 51
.....M. ジュリアーニ
ワルツ op. 32-6F. ソル

1-2曲目：ジュリアーニの2曲は、素朴ですが、きれいな作品だと思い、選ばせていただきました。3曲目：ソルのワルツは、いろんなところで耳にしたいと思います。私が初めて耳にしたのは初めて見たギターコンクール('93神奈川)でした。課題曲で、40人もの方が同じ曲を弾いているのを延々3時間聴いて、夢中になり、座りっぱなしで背中が辛かった、という思い出もある曲です。
【使用楽器：マルカール 1840 仏】

2 朝倉 靖雄 バロック・リュート

イ短調組曲より アルマンド / サラバンド
..... E. ロイスナー

E.ロイスナーは1636年ポーランドに生まれた。同名の父もリュート奏者で、早くから音楽教育をその父から受けていた。本日は1679年に出版された曲集よりイ短調組曲から、アルマンドとサラバンドを演奏いたします。

3 米田 考 ルネサンス・リュート

ファンタジア / パヴァーヌ / ガリアルド
.....J. P. パラダン

4 津山 さゆり ソプラノ 田村 仁良 ルネサンス・リュート

3つのイギリス民謡
庭の千草 アイルランド民謡
スカボロウ・フェア イギリス民謡
ダニー・ボーイ アイルランド民謡

「夏の名残のバラ」は、日本では「庭の千草」としても知られる歌で、アイルランド生まれの詩人、作曲家、バラッド歌手であるトーマス・ムーア(1779~1852)により出版された詩集「アイルランドのメロディ」の中にある曲である。後にプロトウの歌劇「マルタ」で使われて有名になった。スカボロウ・フェアは、フランク・ナイトというバラッドが源といわれ、当時はやったバラドックスやなぞなぞを含んだ曲である。ダニー・ボーイはアイルランド北部の町、ロンドンデリーに伝わる「ククレインへの別れ」Farewell ta Cucullain である。作曲家は不詳で、Petrie Collection (1855) で初めて発見された。作詞はFred E. Weatherly .

5 伊佐坂 則彦 ルネサンス・リュート

ファンタジア R. ジョンソン
ファンタジー J. ダウランド

昨年まではバロックリュートで出演しましたが、今年は15年ぶり(!)にルネサンスリュートにしました。ロバート・ジョンソンは、生前は劇付随音楽の作曲家として有名で、たとえばシェイクスピアの「テンベスト」のための歌曲を書いています。しかしどういいうわけか、リュートソロ曲は15曲ほどしか残っていません。一方のジョン・ダウランドについては、説明不要でしょう。このファンタジーは、俗に「第7番」とよばれる有名な作品です。ほぼ同じ時代の同じ国にうまれた2人が、同じくファンタジーと名付けた曲ですが、趣味はずいぶん違うことがおわかりいただけると思います。

6 保刈 明子 ソプラノ 飯塚 直子 リコーダー 倉又 義克 リュート

Queste lagrim'amare G. カッチーニ
Laudate Dominum in sanctis ejus
..... C. モンテヴェルディ
「解説は別紙をご参照ください」

第2部

7 東京コンソート・オブ・ヴァイオルズ 中山 晴美 ヴィオラ・ダ・ガンバ 佐藤 一也 ヴィオラ・ダ・ガンバ

2つのヴィオラ・ダ・ガンバのための
デュエット 二短調 C. シャフラット

8 青山 比呂乃 ソプラノ 中山 晴美 ヴィオラ・ダ・ガンバ 矢澤 勝之 リュート

主よ安泰を J. F. ロシヨン
敬愛せよ傷受けし者を N. クレランポー

フランスバロックの宗教曲を2曲お届けします。ラテン語ではモテット、フランス語では、モテと呼ばれる種類の曲で、普通はオルガンの通奏低音で演奏される、カトリック教会の典礼音楽ですが、今回はせっかくグレゴリオの家という場で演奏できるのだからこの曲をやってみたく、リュートとガンバの通奏低音をお願いしました。1曲目は、「主よ、主よ、王を守り、私たちの祈りを今日も聞き届けたまえ」と切々と訴える曲。2曲目は、聖ベルナルドを讃えるモテで、「愛ゆえに傷つけられ、純潔により清められ、命の言葉により冠与えられ、ベルナルドは栄光の内に高みに上げられた。アレルヤ」と歌いあげます。(青山比呂乃)

9 遠藤 幸恵 ルネサンス・リュート

パヴァーヌ《美しい花》とサルタレロ
..... P. アテナヤン

リチェルカーレ10番 / ファンタジア67番
..... F. ダ・ミラノ

《美しい花》とサルタレロは優雅なリズムとメロディーに合わせ踊り手達が登場しダンスが繰り広げられる様子が目に浮かびます。そんなイメージで演奏できたらと思います。ダ・ミラノは、声部の動きや交差する音を確認しながら、又、新しい6コースリュートで音を楽しみながら、何度弾いても新しい発見があります。

【使用楽器 2001年 エリック・ステファネリ】

10 小松 俊二 バロック・ギター

フランスの様式によるゆったりとしたフォリア
..... S. デ・ムルシア

1600年頃イベリア半島を起源とする古い舞曲の「フォリア」は不滅の魅力でバロックギター作曲・演奏家の、ほとんどの人に取りあげられています。ムルシア(スペイン)も3曲 スペイン、イタリア、フランスの各様式(風) 変奏曲を残しています。今回取り上げた「フランスの様式~」は、テーマと11の変奏曲から成り、バロックギターの技巧を生かしたリズム、スケール、カンパネラ、アルベッジョ、ラスゲアード等で変奏、展開していきます。八短調の特異な響き(?)で他にはない挑戦意欲曲として選びました。

11 朝倉 靖雄 ルネサンス・リュート 米田 考 ルネサンス・リュート

若い娘 / 何を使って洗いましょう / ロシニョール
..... 作者不詳
ウィロビー卿の御帰館 J. ダウランド

スペインとフランスの16世紀の歌曲の編曲モノ2曲とイギリスのリュートデュオの為の曲を2曲演奏いたします。はじめの2曲はフランスのリュート奏者パスカル・ボケが編曲した曲集の中からの曲で、2曲目の「若い娘」は、映画「めぐり逢う朝」でサント・コロンブが、娘たちに音楽を教えている場面で使用された哀愁感のあるすてきな曲です。「ロシニョール」と「ウィロビー卿のご帰館」はリュートデュオの定番曲、中でも「ウィロビー.....」は私がはじめて聴いたリュートデュオ曲で個人的に思い入れのある曲です。(朝倉)

12 五十嵐 正明 バロック・リュート

カイェタン男爵の死に寄せるトンボー
..... S. L. ヴァイス

フランス語で「墓」を意味する「トンボー」は17世紀フランスのリュート奏者達によって創められた楽曲の様式です。特定の死者に対し、追悼や哀惜の念を込めて捧げられた曲で、ヴァイスも「ロジー伯爵」と「カイェタン男爵」のためにトンボーを残しています。バロックリュートの名曲としても知られる前者に比べ、後者は幾分小ぶりな感じもしますが、バロックリュートならではの幽玄の世界が展開されています。カイェタン男爵がどのような人物だったかは知りませんが、標題には1719年の3月25日に亡くなった旨が記されており、曲は変ホ短調で書かれています。